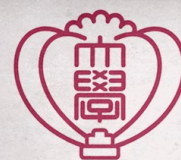


KPU NEWS



薬学の未来をつくる
京都薬科大学
KYOTO PHARMACEUTICAL UNIVERSITY

No. 192 Jan. 2018



新年のご挨拶

理事長 土屋 勝

新年明けましておめでとうございます。

京都薬科大学関係者の皆さま方には、新たな気持ちで2018年を迎えられたことと存じます。

理事長に就任し7ヶ月が過ぎました。大学の各種行事、会議など、この間に賜りました皆さまのご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。

昨年以來、「学校法人」に関する問題が、大きな話題になっています。この話題に、連日メディアが取り上げたのが「付度（そんたく）」という言葉で、2017年の流行語大賞にもなりました。広辞苑では「付度」とは、「他人の気持ちをおしはかること」とあり、「相手の気持ちを察する」、「相手の気持ちをくみ取る」と言った意味があり、通常は、良い意味で使われています。ところが、今回の問題では、「付度」が疑惑に繋がりました。学校法人は中立性が求められ、極めて公共性の高いものであり、学校法人に関してこの言葉が良い意味でないことに使用されたことは残念なことであります。今後は、「付度」を「相手の気持ちを察し、行動する」という本来の意味で使っていただ

きたいものです。

さて、昨年から第3期中期計画が始まりました。本学を始め多くの私立薬系大学は、6年制教育により修業年限が延長されたことに伴う志願者数の減少、新設薬系大学の乱立、さらには18歳人口の減少と、志願者獲得の三重苦があります。このような教育環境の変化に対応すべく、本学は、10年前の2007年度から5年間の中期計画を策定し、推進しています。

2007年度から2011年度までの第1期中期計画（躬行プラン）は「組織・制度改革」を、2012年度から2017年度までの第2期中期計画は「制度運用と施設整備」に、それぞれ重点を置き、目標達成のための推進項目を設定し、2期10年にわたって、改革・改善に取り組んできました。

本学は、2034年に創立150周年を迎えることから、新時代の京薬ブランドを確立するため、創立150周年に向けた長期ビジョンである「京都薬科大学マスタープラン」を策定しました。これは「先端的な研究に支えられ、建学の精神に根ざした『ファーマシスト・サ

CONTENTS

■ ご挨拶

- 新年のご挨拶 理事長 土屋 勝 1
- 年頭にあって 学長 後藤 直正 2
- 新任のご挨拶 2

■ コラム

- 卒業生からのメッセージ 15
- 私の薦める、私の一冊 24
- 水中でぶつぶつ 27

■ イベント

- リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017京都を開催 3
- 2017年度 防災（避難）訓練を実施しました 3
- 異文化体験 9
- 2017年10月にオープンキャンパスを開催しました 12
- 第23回京都薬科大学公開講座開催 13
- ランチョンガイダンスを開催しました 13
- 2017年度京薬祭を終えて 14

■ 特集

- 第3期中期計画の策定について 4

■ 報告

- 2018年度推薦入学試験結果 19
- 受賞 20
- 地域の小学校で薬物乱用防止教室を開催 22
- OISTサイエンスチャレンジプログラムに参加して 23
- （灯籠の記事） 24
- 学生登録スタッフについて 25
- 京都薬科大学奨学金寄付金芳名録 28

■ お知らせ

- Library News 8
- 第103回薬剤師国家試験 15
- 2017年度後期試験等日程 16
- 教育後援会からのお知らせ 17
- 2018年度生涯教育プログラム概要 18
- 京薬コレクション 19
- クラブだより 26
- 京薬会だより 27
- お知らせ 21/22

イエンティスト』の育成を追求する大学」を目標にしています。

2017年度から始まります第3期中期計画は、その第1歩として、6年制薬学の更なる発展に尽くすとともに、第1期中期計画及び第2期中期計画の成果を“京薬ブランド”として実質化することを目的に、「研究活動を通じた教育の充実による次世代のリーダーとなる人材の育成」を目指しております。

具体的な推進方策としては、5年後を目標にした「京薬発の共同研究プロジェクト」の推進や「京薬ブランドを高める広報活動」など55のアクションプ

ランを作成し推進します。

今後、この第3期計画の推進には最大限努力していきますが、職員の皆さまも一体となってこの推進に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。この第3期中期計画が終了した暁には、大学の価値が今まで以上に高まっていると信じています。

なお、第3期中期計画の詳細につきましては、特集記事をご確認ください。

最後になりますが、皆さま方にとって本年がますます良い年でありますことを祈念し、新年の挨拶とします。



年頭にあたって

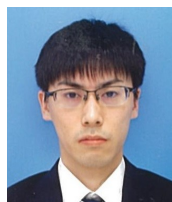
学長 後藤 直正

明けましておめでとうございます。本年も皆さまのご協力を戴き、本学事業の更なる展開を画していきたいと存じます。

「薬」という物を中心とした教育から、「人(患者)」を中心とした安全・安心の医療教育に切り替えるべく6年制薬学教育は始まり、10年余りが経過しました。昨年の本欄では、「6年制教育の真の価値、大きな成果が見えるには30年が必要」ということを書きました。ただ、30年経って振り返るのではなく、10年ごとに見直すことが必要です。4年制薬学は臨床ということよりも基礎を重視して教育・研究が展開されてきました。その振り子を臨床教育に振り直したのが6年制薬学と言えるかもしれません。30年後の実りある薬学の世界を期待するために、いまここで10年が過ぎた6年制薬学教育を振り返る必要があると思います。過去の歴史から見ても、臨床にしても、基礎にしても、根本のところは科学的根拠をもとに展開されるべきことだと思います。新しいことが始まるとそれに傾倒するのは世の流れでしょうが、

多くの薬科大学や薬学部では臨床経験を積ませることに傾倒しているように感じます。学生のときに臨床経験を積むことが不必要と言っているのではありません。あたかも即戦力を求める要望に沿った教育に拍車がかかっているように見えることを危惧しているのです。臨床を経験させる、他職種の方々と連携の経験をする、地域の医療を経験する、それらのプログラムは6年制薬学教育に必要です。しかし、学生の将来を考えると時代に即応した即戦力的教育が蔓延することに大きな疑問を感じます。もう一度、6年制薬学教育の開始時には大声で叫ばれていたが、今や声が小さくなってきた「課題発見・課題解決能力を磨く」という教育目標を思い出し、科学的思考に基づいた教育を展開することが必要ではないでしょうか。本学では第3期中期計画の推進も本格化します。その計画の中には本学の弱点の強化や本学が目指すべき教育・研究が含まれます。是非とも第3期中計の推進にご協力、ご尽力戴きますようお願いし、新年の挨拶に代えさせていただきます。

新任のご挨拶



薬学教育系
学生実習支援センター

助教 高田 哲也

この度、平成29年10月1日付で学生実習支援センターの助教に着任いたしました。私は、平成24年に本学を6年制第1期生として卒業、平成28年に本学大学院博士課程を修了し、学位を取得しました。その後、研究機関で1年半研究に従事して参りました。

実験実習は、机上では定着しづらい知識でも、実

際に肌で感じることで定着を促すことのできる貴重な場だと考えます。これまでの約10年に及ぶ研究生生活を通して得た技術や知識を生かし、実習を通して学生の知識定着を促すことができるよう尽力していきたいと考えております。同時に実験や研究の楽しさを知ってもらい、研究マインドを持った薬剤師の育成にも貢献していきたいと考えております。

教育の現場は本学が初めてであり、諸先生方から学ばせていただく毎日ではありますが、本学の6年制1期生の卒業生として、本学の薬学教育・研究の発展に尽力していけるよう精進して参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2017京都（主催 リレー・フォー・ライフ・ジャパン京都実行委員会、公益財団法人 日本対がん協会）が、本学中央庭園にて開催されました。本イベントは、がん患者さんやご家族、その支援者の皆さんが交代でタスキをつなぎながら夜を徹して歩く「夜通しウォーク（写真上）」や、様々な企画を通じて、がん征圧への願い、絆を深めることを目的とされています。京都府では2011年に1回目のイベントが開催され、今年度6回目を迎えられました。

本学では、がん治療薬、がん薬物療法など、がんに関する研究活動を行っていることから、本イベントの趣旨に賛同し、会場・施設の提供と学生ボランティアの運営参加に微力ではありますが協力させていただきました。

開催期間：2017年9月30日（土）16：00～10月1日（日）9：00



2017年度 防災（避難）訓練を実施しました

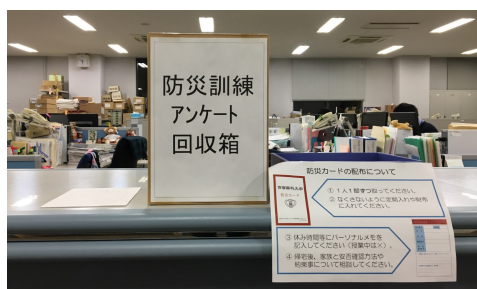
2017年度防災訓練が、10月17日に本校地で行われました。

秋雨前線の到来により、訓練当日の朝まで実施が危ぶまれましたが、なんとか天気が回復し、参加者1200名を超える訓練を行うことができました。本年も山科消防署の協力を得て、授業中の災害を想定した訓練を行いました。

また放水訓練も引き続き取り入れ、充実した防災訓練となりました。



放水訓練の様子



学生課カウンター上
アンケート回収箱と配布している防災カード



中央庭園への避難の様子

訓練総括

大勢の参加者による訓練につき、少しの気の緩みが事故につながります。その中で、全員が無事に避難することができました。学生・職員が一丸となり取り組んだ結果です。

地震のみならず、豪雨による水害や土砂災害、台風による風害、さらにはテロや武力攻撃等、多くの危険が起こりうる情勢となっています。今回の訓練での学びを、全学生に配布している「京都薬科大学防災カード」を活かして深めてください。

防災カードを持っていない人は学生課窓口まで取りに来てください。

また防災訓練での意見を「施設課」または学生カウンターアンケートBOXまでお寄せください。

第3期中期計画の策定について

2016年7月から取り組んでまいりました第3期中期計画の策定が、ようやく終了しました。全職員・各部署等から中期計画の策定にあたり、貴重なご意見を頂きましたことに感謝申し上げますとともに、150周年に向けて、本学の教育・研究・運営に、引き続きご協力ならびにご尽力頂きますようお願い申し上げます。

さて、今回本誌の特集記事として「第3期中期計画の策定について」ご紹介をいたします。本来ならば第3期中期計画の策定は前年度に終了し、今年度から実行すべきところではありますが、始動が約半年間遅れました。第1期（2007～2011年度）および第2期（2012～2016年度）は未知の薬学6年制教育への対応と整備が大きな課題でありましたが、昨今の日本の薬学界をめぐる情勢から、第3期中期計画は5年後、10年後の予想される変革を踏まえたものであるべきであります。昨年末におおよそ完成に至った計画にはその視点が欠けているように感じました。第2期が終了し、第3期の始動が遅れたとしても、第2期で構築された本学の教育・研究・運営体制は着実に成果を挙げていることから、無為の空白期間に至らないと判断し、計画を修正するために、策定期間を延長することを決断致しました。ご理解ください。

判断が遅いというご批判ならびにご叱責は真摯に受け止めるべきことであり、それを招いた責任も感じておりますが、現時点（11月現在）では各部署で中期計画に連動した予算計画が立案され、既に着手されているアクションプランもありますので、何卒ご容赦頂き、140周年、150周年に本学が大きく飛躍するための第3期中期計画の実行にご尽力頂きますようお願い申し上げます。

学長 後藤 直正

Feature article.

企画・広報課

1. はじめに

大学における中期計画の策定は、大学運営の中長期的な方向性を示す指針として、国公立大学では中期目標に連動して、中期計画が策定されている。私立大学においてはまだ一部の大学でのみ中期計画が定められているという状況であるが、本学における中期計画は、2006年の薬学教育6年制への移行と時期を同じくして、中期計画の必要性及び大学運営や教員組織の在り方についての活発な議論を経て策定されてきた。

すなわち本学の中期計画は、京都薬科大学の将来あるべき姿を示し、その実現に向けて改革すべき事項を明確にするものとして策定され実行されている。

これまで「第1期中期計画（躬行プラン）：表1」（2007～2011年度）及び「第2期中期計画（2012～2016年度）：表2」により、計画達成のための推進項目を設定し、2期10年にわたって改革・改善を行ってきた。第1期では「組織・機能」整備に、第2期では「施設・制度」整備に主眼を置いて推進されてきた。

第2期を総括すると、掲げられた重点項目61項目の平均進捗率は90%となったが、進捗評価は各重点項目を所管する責任者の自己評価ベースであったため、進捗管理・進捗評価に一層の工夫を凝らすことが課題として残った。なお未達成事項は第3期に引き継ぎ、達成事項であっても継続すべき目標は取り組みを続けることとした。

（表1. 第1期中期計画（躬行プラン））

主な推進項目
◆大学運営の機能強化
◆理念・目的に沿った教育・研究の推進
◆薬剤師国家試験合格率の向上
◆学生にとって学びよい安心・快適な環境の提供
◆安定した財務基盤の構築

（表2. 第2期中期計画）

主な推進項目
◆中期計画の推進
◆自立した学生の育成
◆幅広い人材育成のための教育活動
◆研究を通じた教育活動
◆教育・研究活動を支える組織・制度
◆財務計画
◆施設・設備の整備

2. 第3期中期計画の策定プロセス

「第3期中期計画」（2017～2021年度）では、薬学6年制教育が開始されて10年後の今を契機として、これまでの本学の実績を踏まえ、初心に立ち返り「運用と人材育成」を主なテーマとした。

策定にあたっては、理事長・学長・事務局長の三者の協議により、「薬学のプロフェッショナルの育成」と「先端的で高度な研究を行う大学」という2つのビジョンが掲げられ、これらを推進するためのキーワードとして「全学をあげた教育職員と事務職員の“共同”と“協働”」※1が明示された。この方針を受けて、第3期中期計画の策定が行われた。策定のプロセスは【意見集約】・【マスタープラン策定】及び【中期計画（案）策定】の3つのフェーズに区分される。各フェーズの概要については次のとおりである。

■ 第1フェーズ【職員意見集約】『第3期中計 午後 カフェ』開催

職位、経験が多岐にわたる全職員で本学の将来を語り合い、出された意見を第3期中期計画のアクションプラン※2に反映させることを目的として、『第3期中計 午後 カフェ』が開催された。休日の土曜日の午後に、教育職員及び事務職員のほぼ全員が参加し、提示されたテーマについて活発な議論を交わすことができた。カフェの終わりには、各テーブルで意見を集約し、グループ及び個人ごとにプロダクトを作成し、代表者による発表を行い、全体で成果の共有を行った。

※1：共同…共同研究、各種プロジェクト等、分野・部署の垣根を越えた仕事や業務を表している。

協働…教育職員と事務職員の役割の壁を越えた協力関係で共通の目標に向かう体制を指す。

※2：アクションプラン…中期計画を達成するために策定される、具体的な行動計画。

開催日時：2016年7月9日（土）13:00～17:00

開催場所：創立130周年記念館

形 式：ワールド・カフェ形式



第3期中計 午後 カフェの様子



教育・事務職員が参加し活発な意見交換

■ 第2フェーズ【マスタープラン策定】

理事長・学長・事務局長により、20年後の長期的ビジョンを描く「京都薬科大学 マスタープラン」（図1）が策定され、創立150周年に向けた第3期中期計画の位置付けと第3期における課題10項目（図2）が学長から示された。2017年5月31日には、全職員に向けた中間報告として第3期中期計画説明会が開催された。

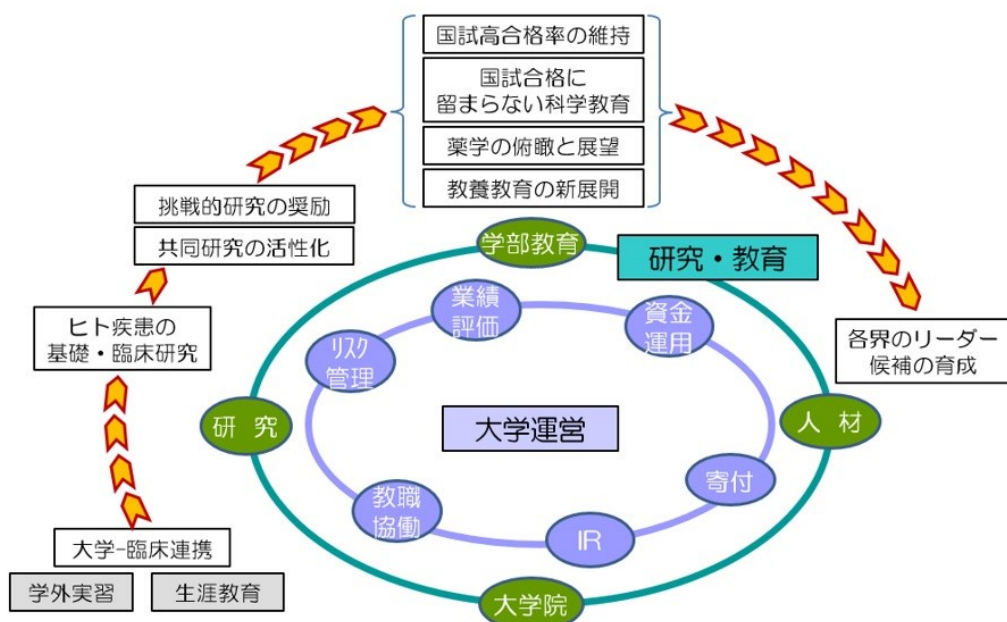
(図1. 京都薬科大学マスタープラン)

京都薬科大学マスタープラン 創立 150 周年への飛躍

新時代の“京薬ブランド”の確立

先端的研究に支えられ、建学の精神に根差した
ファーマシスト・サイエンティストの育成を追究する大学

1. 先端的研究の展開と教育への反映
2. 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ
3. 盤石な経営・財政基盤と教職協働による大学運営



(図2. 第3期中期計画の位置付けと課題)

創立 150 周年（2034 年）へ向けての第 3 期中期計画の位置と課題



第 3 期の課題

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1 研究と臨床教育の「かい離」の解消 | 6 業務評価の実施 |
| 2 研究活動を基盤とした科学教育の強化 | 7 情報解析(IR ^{※3})と活用 |
| 3 ヒト疾患研究の推進 | 8 新たな財政基盤の整備 |
| 4 学内研究力の結集化 | 9 運営体制の効率化 |
| 5 教養教育の新展開 | 10 運営体制の弾力化 |

※3: IR…Institutional Research (インスティテューショナル・リサーチ)。大学が所有する様々なデータを収集・分析し、計画立案、意思決定等に寄与する活動のことを指す。

■ 第3フェーズ【マスタープランに基づく中期計画（案）策定】

第3期中期計画策定委員会（事務局長（委員長）、理事長、副学長（研究科長）、教務部長、学生部長、進路支援部長、図書館長）が組織され、マスタープラン及びワールド・カフェで得られた意見をもとに重点項目が検討された。重点項目に連なるアクションプランは、これらを主導する推進担当課において策定し、進捗管理を行うこととした。第2期における課題であった、中期計画の進捗管理・進捗評価をより適時・適切に把握し、年度ごとの進捗状況をオンタイムで確認・評価できるツールとして「中期計画進捗管理システム」を導入した。これにより、全ての計画の進捗が風通し良く職員間に開示される環境が整備され、教職協働を円滑に推進することが期待される。こうして策定された第3期中期計画は、パブリックコメントを経て、理事会・評議員会の承認を得て成立した（図3）。今後のプロセスとしては、第3期中期計画に沿って2018年度事業計画（予算計画）を立案し、各部署の組織目標に展開して具体的なアクションプランに着手していく予定である。

（図3. 京都薬科大学 第3期中期計画）

京都薬科大学 第3期中期計画

第1章 先端的研究の展開と教育への反映

- 1 科学的思考を育む教育研究能力の向上
- 2 教育研究環境の向上

第2章 医療界の各領域でリーダーとなる人材を輩出する大学へ

- 1 自立性・社会性・豊かな教養を育む教育
- 2 自立性・社会性・リーダーとしての素養を育む学生支援

ばんじゃく

第3章 盤石な経営・財務基盤の構築

- 1 持続的且つ安定的な経営及び新たな財務基盤の整備
- 2 大学が有する学術資源の社会への還元及びブランド構築

第4章 教職協働による大学運営

- 1 大学の機能強化と業務改善
- 2 その他の重要目標

3. 終わりに

第1期中期計画がスタートした2007年から数えて、大学創立150周年に向けての歩みは第3期の期間中に中間地点を迎える。第1期～第2期を通して、薬学教育6年制を支える体制が整備されてきたが、第3期では6年制薬学の更なる発展に尽くすとともに、これまでの成果を“京薬ブランド”として確立することが次なる展開となる。大学を取り巻く環境の変化が予測不可能な状況の中にあっても、社会から愛され、必要とされ続ける大学であるために、建学の精神「愛学躬行」を基軸に、学生・職員がそれぞれの領域で活躍し、ワクワクするような夢やチャレンジを追い求められるよう、中期計画を大学構成員全員の力で推進していきたい。



紅葉した中央庭園のシンボルツリー

■電子情報収集の中で書庫の整理が進む

国内外の大学図書館では情報の電子化が進んでいます。京都薬科大学においても、学術雑誌の多くを電子ジャーナルに転換してきました。その中で、中長期的な視点から、古い紙媒体資料を除籍するなど、図書館書庫の整理が進められています。

形態として物理的な使用に耐えないなど老朽化した書籍や、あまりにも古い情報しか掲載されておらず実用に適さない図書の除籍が行なわれています。

これと並行して、学生や職員の希望に基づいて、新着図書が順次配架されつつあり、これは今後も継続していきます。

■いっそう学びやすい図書館をめざして

今後、よりよい学習環境を希望する学内からの声などに基づいて、学生の自主的な学びを支援する図書館づくりが行なわれます。学生、職員から出されてくる様々な意見を参考にして検討を進めます。

学びを広げ、深めるための環境をめざしている図書館です。書籍資料を用いて学習する場所として、どうぞ引き続きご利用ください。京都薬科大学図書館は、みなさんの来館をいつもお待ちしております。



開館日程

2018年1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2018年2月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28			

2018年3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8:30-21:00

10:00-17:00

8:30-17:00

休館

休館= 館内整備
蔵書点検

■ 2017年度フライブルク大学主催夏大学参加者を引率して



フライブルク大学が主催する外国人のための語学講座「夏大学」が2017年8月3日から25日（授業期間）までの約1ヶ月にわたり開催された。今回で18回目となる派遣には多くの応募者があり、一定の条件を満たした最終10名の本学学生が参加した。今回も前期試験の日程の都合により1日遅れの4日からの授業参加となった。今回は従来のフライブルク大学医学部附属病院の院内薬局の見学に加え、薬学部の研究施設見学、そして市内の個人薬局の見学が実現した。夏大学のドイツ語学習にプラスして薬学発祥地のドイツにおける薬学教育、薬局の運営に関する学習の機会が得られるなど、専門分野についても大変充実した夏大学となった。いずれの見学会も薬学を志す異国の若い学徒の将来を期待する関係者の一方ならぬご厚意により実現したものである。

夏大学では午前中のドイツ語学習以外に、午後にはドイツの環境問題、政治経済、文化などを講ずる講義がオプションとして用意されている。また午前中に学習したドイツ語を大学外で実際に应用するための様々なプログラムが提供されている。これは世界各地から集まったクラスメートやコース参加者との交流を図る絶好の機会でもある。また週末にはドイツおよび周辺国の歴史や文化に触れるバス旅行が計画されているなど、短い期間に徹底してフライブルクを体験できる仕掛けが用意されている。

今回の夏大学に参加した3名の代表者にフライブルクでの異文化体験を寄稿してもらった。ドイツという英語を公用語としない国で1ヶ月もの間、慣れない生活習慣、全て理解できるとは言い難い言葉を話す世界

に身を置いた参加者の率直な体験談を読んでいただきたい。この体験談を読んで自分も是非今まで味わったことがない強烈なカルチャーショックを体験してみたいと思ったら、育心館4Fにある桑形研究室を訪ねてほしい。夏大学やフライブルク大学に関する情報を提供したい。フライブルク大学の夏大学は3年前から大学の奨学金が支給される海外研修となり、一定の条件を満たした受講希望者には海外語学研修の単位が認定され、大学より参加費用の一部が補助されることになっている。学生時代に長期の海外生活を体験したい、見知らぬ異国の地で自分の力を試したいと考えている諸君には是非ともこの制度を利用していただきたい。

最後になりましたが、この短期留学を実施するに当たり、物心両面でご支援いただきました理事長先生、学長先生をはじめ多くの本学関係者の皆様に感謝申し上げます。

ドイツ語担当准教授
日本フライブルク・アルムニ会会員
ひろし
桑形 広司



フライブルク大学薬学部研究棟入り口にて
ドイツ人教授陣+ジュニアとともに

■ 学生実習支援センター よしこ 千原 佳子

8/3～27の間、フライブルク大学における「夏大学」に学生引率兼留学者として出張させていただきました。

今年は職員も学生と同様に寮に入り、留学生として英語コースのプログラムに参加できるとのことで、日頃から英語力の強化を目指している筆者にとっては絶好の機会となりました。事前のWebテストにてクラス分けがなされ、大学卒業以来の90分×2コマ/日を真剣に受講しました。授業スタイルも日本とは大きく異なっており、かなりハイレベルな授業内容でした。クラスメイトは多国籍で、イランからの留学生が多かったことには驚きでした。寮のフラットメイトも夜遅くまで英語でなにやら議論していることもしばしば。自身の英語スピーキング力のなさを痛感しつつも、日本国内で異国の人々と会話

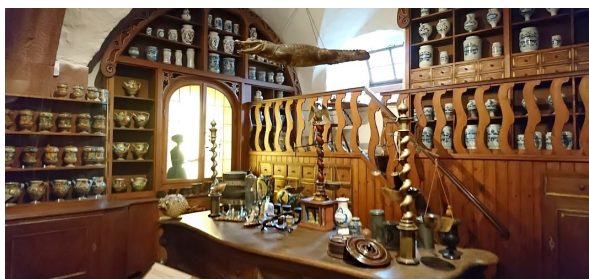


大学前広場（左奥校舎、右奥図書館）

をする機会にはほばないので貴重な経験となりました。

本学の留学生に対しては、大学の研究室（6月に本学来学の先生方による案内）、大学病院の薬剤部、街の薬局の見学の機会を設けていただきました。ドイツと日本の薬学・薬事制度の違いを目の当たりにすることができ、非常に有意義でした。

週末には遠出をすることも可能です。フライブルクは国境に近い場所にあるので少し行けばそこはも



薬事博物館内薬局展示

うフランス、はたまたスイス。国内外問わず魅力的な場所が多くてここには書ききれませんが、薬学関係者に最もおすすめしたいのは「ドイツ薬事博物

館」です。フライブルクから電車で3時間ほどの古城ハイデルベルク城内にあります。欧州薬剤師の歴史、薬や容器の展示、昔の薬局・実験室の復元、薬局看板の変遷等興味深い展示が目白押しでした。錬金術時代からの流れを感じる装置が置かれた実験室に、化学系分野出身の筆者は特に興奮しました。

引率した学生たちも、フライブルク滞在を満喫し、充実した留学生活を送れたようで、それぞれの成長を感じました。今後この経験を大いに活かしてもらいたいですし、少しでも興味を持たれた方は来年ぜひとも参加していただきたいと思います。

研究・産学連携推進室 太田 亮史

例年実施されているフライブルク大学サマープログラムですが、本年より職員も学生同様にフライブルク大学主催の夏大学（語学プログラム）に参加し、学生寮で生活をする制度が設けられ、とても有難いことにその制度の一期生として参加する機会を頂きました。

「ドイツで英語？」という疑問は会う方々にその都度質問をされましたが、自身も参加するまで同様の思いでした。しかし結果として非常に英語力を鍛えられた1ヶ月間となりました。そもそも講師は英語のネイティブスピーカーであり（受講したクラスはイングランド出身講師とカナダ出身講師が担当）、併せて習得目標は「大学入学が許可されるレベルの英語力」と設けられており、授業中はもちろん、寮や街中においても英語漬けの日々でした。（街中のドイツ人は我々より英語が堪能！）何よりその日学んだことは宿題として大量に課題が出され、久しぶりに学生時代に戻ったような日々でした。

滞在中は英語学習もさることながら、フライブルク大学国際交流課との打合せや学生のサポートなど引率としての業務も行いました。学生は午前中の授業は全出席でしっかりドイツ語の習得に取り組んでくれました。また午後については、午後授業に参加

する学生、アクティビティに参加する学生、各自で計画し出掛ける学生と非常にアクティブに過ごしていました。自身が学生時代にヨーロッパを鉄道で旅行した経験から学生達に様々なアドバイスをしてあげることができ、土日には自身で計画し、遠くノイシュバンシュタイン城やゴルナーグラッド（スイス）まで出掛けていった学生を見て感心させられました。

出発日には不安な表情を浮かべていた学生たちも、帰国日には「何とかなる、できる」といった頼もしい一面が行動や発言から感じられるほどで、たくさんの事を学んでくれた学生を見て非常に嬉しくなりました。一人でも多くの学生がこのプログラムに参加し、“一生の記憶”を作って欲しいと強く思いました。



クラスメイト達とフライブルク大聖堂を背景に（中央が筆者）

2年次生 井上 絵美子

私は第二外国語で中国語を選択していますが、ドイツ留学を決めました。理由は個の力を持ち、グローバルに活躍できる薬剤師になるためには、外国語の習得に加え海外の医療、またその文化などの見聞を広げる必要があると感じたからです。その点において、第1にアメリカよりもドイツの方が日本の医療制度と共通点が多く、かつ医療先進国なので多くのことを学ぶことができ、第2に1ヶ月近くも留学できるのは2年次生の今しかできないチャンスだと思ったからです。

生活について、午前は授業で午後は自由でした。事前にドイツ語を勉強していったのですが、授業のレベルに追いつけず苦戦しました。大学の薬学部研

究室を見学した際には、有機化学や生化学の授業で習ったところが出てきて、今習っていることが現在進行形で研究対象でもあることを感じました。

また、街の薬局や大学病院の薬剤部を見学した際には、日本よりもドイツの方が薬剤師の地位や能力が高いことを感じました。それについて調べてみると、ドイツは完全に医薬分業化しており、薬剤師のみに薬局の開設と経営権、調剤権が与えられているということがわかりました。病院では入院患者のみを扱い、外来診療はすべて開業医が行います。そして風邪など軽い症状の場合はまず薬剤師（薬局）に相談しに行き、風邪に効く薬やハーブティーなどを出してもらおうそうです。

他方、薬剤師は住民から求められる知識も多く、見放されないように常に勉強する努力が必要です。



フライブルク大学図書館前にて（筆者は左）

おはら

■ 2年次生 小原 和樹



ハイデルベルクの街並み

授業の中で担任のドイツ人の先生が言われた「ドイツ語の単語や文法の勉強は大切だけれど、世界中どこでもできる。君たちはせっかくドイツに来たのだから、ここでできない勉強をたくさんしてほしい」という言葉が強く印象に残っています。

ドイツでの日々は刺激的で魅力に溢れていました。フライブルクの街は歴史的な建造物に囲まれ、街のシンボルである大聖堂は本当に圧巻でした。自然も豊かで、寮の近くには大きな湖があり、その湖の近くの森には野生のリスが住んでいるなど、どこをとってみても日本ではなかなか目にすることができない景色が広がっていました。ひとたび街に出ると、当たり前のことながら耳にするのはドイツ語ばかりで、初めは慣れない環境に不安に感じることも多々ありましたが、日が経つにつれ、また日々の生活の中でたくさんのドイツの人たちの優しさに触れることで、心の底から居心地の良さを感じるまでに馴染むことができました。最終的にはこのままここで生活していきたいとさえ思うほどでした。

私が暮らした学生寮にはドイツ人4人とイタリア人1人が暮らしており、まったく文化の違う人たちと1ヶ月弱の間寝食をともにしました。もちろん彼らには日本語は通じず、コミュニケーションをとるのもひと苦労でした。片言の英語でなんとかコミュニケーションを取ろうと試行錯誤する毎日で、初めはなかなかうまくいきませんでした。彼らと意思の

これが薬剤師の地位や能力が高い所以であるのと、ドイツの薬剤師が調剤、薬の販売以外にも健康相談を行うオールマイティな存在でもあるところが日本と異なる点だと感じました。

最近、日本でもかかりつけ薬局の制度がスタートしましたが、ドイツのようにオールマイティな存在になることができれば、もっとみんなから求められる理想の薬剤師になることができるのではないかと思います。

疎通ができるようになってきたときは心の底から嬉しかったのを覚えています。

ドイツに滞在中は他国の人と交流する機会が多くありました。中でも印象に残っているのは、ヨーロッパ・中東・アジアなど老若男女を問わず世界中の留学生とチームを組んでサッカーをする大学主催のサッカーイベントです。初めはまったく話したこともない見ず知らずの外国人ばかりで少し戸惑い気味でしたが、いざ試合が始まるとチーム内で自然とコミュニケーションが増え、本当に良い雰囲気でも楽しかったのを覚えています。そして何よりも、スポーツを通じて国籍や話す言葉も違う人々との言葉以上のコミュニケーションがとれ、本当に良い経験ができたと思います。



サッカーで異文化交流（▲：筆者）

冒頭でドイツ人の先生の言葉にふれましたが、彼の言葉こそ、この留学の目的であり、私のこの留学へ対する考えのすべてだと思います。日本だけでなくいろいろな世界を自分の目でみることの大切さ、慣れない環境で生活していくことの大変さ、異文化の人々とコミュニケーションをとることの難しさ、そしてそれらの困難を乗り越えた時の喜びや達成感など、本当に多くを学びました。そして、この貴重な経験をここだけにとどめることなく、これからの成長のために活かしていきたいと思っています。

■ 2年次生 杉森 菜々子

フライブルク大学のサマープログラムに参加し、とても充実した1ヶ月を過ごすことが出来ました。平日の午前中は、20人ほどの少人数クラスでドイツ語の授業を受けました。私のクラスでは、他大学の日本人学生もいましたが、アメリカ、イギリス、イタ

リア、タンザニアなど色々な国からの留学生が集まっていました。授業はほとんどがドイツ語で、分からないときは先生が英語に訳して説明するといった形でした。ドイツ語のみで書かれた教科書を用いて自己紹介、道案内、ホテルや病院で使う会話表現など、実際に役立つ内容を学びました。日本人以外の留学生とペアになり、ドイツ語を話す練習や単語



ドイツ人のトーマス先生と

ゲームもしました。最初の頃は
何を言っているのかもなかなか
理解できず授業についていくの
で精一杯なうえに、他国の留學
生が授業を止めて質問をする積
極性に圧倒され、自分から発言
することが出来ませんでした。

しかし宿題や予習復習を続け
るうちに、徐々に授業内容を
理解し、発言もできるようになり
ました。

もちろん勉強だけではなく、休
日には少し遠出をして、ミュン
ヘンなどの大都市や隣の国のフ
ランス、スイスを観光しました。
自分たちで行き先、交通手段、
時間を調べて計画する等、日本
から遠く離れた異国の地で行動
できたことは、少し自信になり
ました。

また、薬局、病院、薬学部、
薬事博物館を見学し、ドイツ
の薬学事情について様々な話を
聞くことができました。その中
でも訪れた大学病院で、薬剤師
は直接患者のもとに行き説明
せず、医師が患者に対して薬
の説明するというのを伺い、驚
きまし

た。薬局では薬剤師のほかに、
薬学技術アシスタント、薬学商
業従業員が働いていて、それぞ
れの仕事の内容は異なります。早
くから医薬分業に取り組んでい
たドイツで、日本とはまた違う
薬学事情を学びました。

ドイツ語は第二外国語として
1年と少し、英語は小学生の頃
から10年以上も習っているにも
関わらず、全然上手く話せない
という現実に悔しい思いをし
ました。今後は、この悔しさを
ばねに、ドイツ語と英語を今
まで以上にしっかりと勉強した
いと思います。とても良い刺激
を受けた夏休みでした。



街中の薬局

2017年10月にオープンキャンパスを開催しました

Event

入試課

2017年10月29日（日）に秋のオープンキャンパスを開催しました。台風22号の接近に伴い、強い雨・風が襲う中、326名（前年比72.9%）の参加者がありました。会場の創立130周年記念館では、「学長メッセージ」、「大学紹介（入試委員長）」、「在學生の話」、「卒業生の話」を行い、「見学施設の概要説明」を説明後、「施設見学」、「相談会」を実施しました。

あまり

「在學生の話」では、6年次生の甘利圭悟さんに本学を志望した理由や分野での研究活動を通じて成長できたことなどご自身の体験を通じた話がありました。

「卒業生の話」では、兵庫県立尼崎総合医療センター薬剤部に勤務されている大原沙織様をお招きして、本学の魅力や本学を選んだ理由、本学での経験が今の仕事に活かされていること、また病院薬剤師としての仕事などについてわかりやすくお話していただきました。「施設見学」では、臨床薬学教育研究センター、躬行館にある6分野及び図書館の協力を得て見学を行いました。見学誘導は学生広報スタッフが担当し、参加者と本学在學生が交流できる場にもなりました。「相談会」は、本学の職員と在學生が相談員となり、70名（前年比66.7%）の相談者がありました。相談内容は、

入学試験や進路、奨学金、学生生活などで、相談会参加者のとても熱心に質問、相談される姿が印象的でした。

今後も参加者の方々に本学の教育・研究環境を知っていただくため、オープンキャンパスをより一層充実したものにして参ります。

【参加者内訳】

高校1年生：36名、高校2年生：89名、
高校3年生：38名、既卒生：4名、付添者：159名



研究室見学の様子

第23回 京都薬科大学 公開講座 開催

Event

生涯教育センター

2017年10月21日（土）、本学愛学館A31講義室及び薬用植物園御陵園において、「第23回 京都薬科大学 公開講座」を開催しました。台風が近づくあいにくの天気でしたが、約50名と予想以上の方々に参加していただきました。

第一部は、北出達也センター長の開会挨拶の後、
今井千壽准教授による講演『新5ポンド紙幣から見えてくるイギリスの今』、渡辺徹志教授による講演『知っておきたいPM2.5・黄砂などのこと』の2講演が行われました。タイムリーな話題や日ごろから関心のある身近なテーマの解りやすい解説に、参加者からは「興味深く聴けた」「わかりやすく、ためになった」と大変好評でした。

第二部は、薬用植物園御陵園の見学の予定でしたが、雨脚が強く、急遽、松田久司教授による『薬用植物に関するミニ講義』に切り替え、希望者のみミニ講義後に御陵園に案内する旨アナウンスしたところ、7割以上の参加者が引き続き御陵園を見学されました。

薬用植物の講義は「もっと長く聴きたかった」と大好評で、「荒天でも御陵園見学ができて良かった」という声からも、植物に関心の高い受講者が多かったことが窺えます。薬用植物園御陵園見学も、雨の中、1時間以上にわたり見学される方が多く、本

学教員や学生による解説にも熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

あいにくの天候ではありましたが、薬用植物のミニ講義も追加され、参加者の皆様には楽しんでいたと思います。本年も無事開催終了できましたことを心より御礼申し上げます。



今井千壽 本学 准教授



渡辺徹志 本学 教授



講演風景



薬用植物園御陵園 見学

ランチオンガイダンスを開催しました

Event

進路支援課

今年度から、新たなキャリア支援プログラムの1つとして2～4年次生を対象とした「今後の学生生活と進路を考えるランチオンガイダンス」を開催しました。このガイダンスは、学年を越えたスモールグループディスカッションを通して、将来のために今後の学生生活にどのように取り組むべきかを考えることを目的としています。

今年度は9月から11月にかけて計6回、昼休みの時間を活用して行いました。取り上げたテーマは「卒業するまでにしたいこと」「業種・職種を調べよう」「就活の進め方と表現力アップ」で、学生の皆さんはランチを取りながら和気あいあいとした雰囲気の中で話をされていました。

参加した学生からは「自分を振り返る良い機会になった」「グループワークで他学年、初対面の方や職員の方と話せて参考になった」「自分がどれだけ薬学部生の将来について無知か分かった」等の意見が聞か

れ、自分自身や将来を考える上でのヒントとなったようです。

学生の皆さんには、このような機会を積極的に活用いただき、早い段階から進路を考える機会を持って学生生活をより充実したものにしていただきたいと考えています。



グループワークの様子

今年の京葉祭も無事に終わることができました。

京葉祭の開催にあたって、ご理解、ご協力頂きました学校関係者の皆様、本当にありがとうございます。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

委員長として、この1年間で様々な経験をさせていただきました。学生の皆様に楽しんでいただける京葉祭にしたい、ご近所の方々や一般の方々にもたくさん来ていただけるような京葉祭にしたい、そのような理想を持ち、「それを現実にするために自分達には何ができるのか」という事を常に考える1年となりました。

その中で、私たちがより良い京葉祭にするための新しい挑戦として、「京葉祭史上初となるロックバンドのLIVEの開催」をさせていただきました。2016年度の京葉祭で創立130周年記念館を初めてライブ会場として使用させていただく許可を得る過程で、創立130周年記念館の防音レベルが非常に高いことが分かり、2017年度の京葉祭では、兼ねてよりロックバンドを京葉祭にお呼びしたいと考えておりました。初めての挑戦であるため、体調不良者が出た場合や、ハラスメントが起こった場合など、起こりうる様々なケースの問題点とその対処案を事前に考え万全な準備をしてきました。その分、京葉祭での感覚ピエロのLIVEを見た時、心から感動し、自分達の頑張りが報われたように感じました。



野外ステージの様子

この1年間、特に実行委員の作業期間である9月中旬から京葉祭当日までの1か月半は、京葉祭の運営に携わる3年次生だけでなく、ステージ企画の準備をする1, 2年次生も疲労とストレスの溜まる時期だったと思います。しかし、誰一人途中で辞めることなく、最後まで実行委員全員で協力して頑張ってくれました。この時私は、疲労やストレスの溜まるこの期間を共有することにより、自分自身の身勝手な行動・発言をするのではなく、自分を含め全体を客観視し、「今辛い状況にいるのは自分だけではない、同じ団体に所属する仲間達も頑張っている」という気持ちを持ち続けられ、仲間を思いやる事のできる絆の深い団体を作れるのだと感じました。

ここまで、委員長として感じたことを述べさせて

いただいています。私がこうやって委員長をやり通すことができたのは、紛れもなく同年次生の仲間達のおかげです。自分達の手本となってくださった先輩方、自分達についてきてくれた後輩たちもちろんですが、やはり自分の一番身近な存在でいてくれた同年次生の仲間達には本当に感謝しかありません。



こどもランドの様子

京葉祭実行委員会に所属した3年間を振り返ると、1年次生の頃はただただ先輩方に楽しませていただく立場でした。疲れが溜まっていたはずなのにそれを表面上に出さず、いつも私達に楽しく作業することを教えてくださいました。そのような先輩方の姿を見て、2年次生になってからは後輩達に淡々と作業の指示だけするのではなく、先輩方から教えていただいた様に楽しく作業をすることを教え、それと同時に京葉祭の運営に携わる作業をしている先輩方を見て知識を吸収してきました。そして、自分達が3年次生となってからは、今までより責任感を強く持ち続け、自分の作業で手一杯になった時でもそれを表面上に出すようなことはせず、周りにしんどそうな人がいたらその人から話を聞いたりするなどしてサポートをすることもできました。こうした3年間があったからこそ、2017年度の京葉祭が終わると同時に、全てやり遂げたという達成感で胸が熱くなりました。皆の期待に十分応えることができたかは分かりませんが、私自身はとても充実した1年間を過ごすことができました。そして3年間の実行委員会での生活はとても良い思い出になりました。



京葉祭実行委員メンバー

改めまして、お世話になった学校関係者の皆様、近隣の皆様、本当にありがとうございました。また今後とも、京葉祭および京葉祭実行委員会を温かく見守って頂きますようお願い申し上げます。

自分にとって苦しい道を進め

まさのり
尾花 理徳



2006年 学部卒業
(臨床薬理学分野)

大阪大学大学院薬学研究科
臨床薬効解析学分野 助教

園児の頃の卒園文集を見返すと、将来の夢は「科学者」と書いてありました。あまり可愛げのない夢ですね。

皆さんは夢に向かって挑戦していますか。明確な夢をもって大学生活を送っている学生さんもいれば、なかなか将来の姿が想像できていない学生さんもいらっしゃるでしょう。私は将来のことは深く考えず大学生活を過ごしていました。3年生の時、中田徹男先生の授業が面白く、研究室配属では臨床薬理学分野（臨薬）を希望し、配属されました。研究室では腎臓に関する研究を行わせていただきましたが、「おしっこ博士え〜」と同僚から呼ばれながら研究している先輩が格好良く見え、憧れたものです。また、臨薬で研究の楽しさ、厳しさに魅了されました。卒業後の進路に悩んだ時は、先輩から「道に迷ったときは自分にとって苦しい道を進め」とご助言いただきました。その後、大阪大学大学院で博

士前期・後期課程を過ごし、製薬会社の研究職を経て、現職に至っております。博士後期課程に進む時、大学教員への転職の時等、その時々で先輩からの言葉が背中を押してくれました。

現在、助教として、研究・教育に携わっております。学生とともに行った研究により生命科学の裾野を広げ、人々の健康に貢献することが夢であり、目標です。大学教員の仕事は大変だと思われがちですが、初めて細胞を培養して充実感に溢れる学生の表情や、学生同士で「こんな実験してみたい」と話合っている姿を見ると、教員冥利に尽きます。また、研究が楽しく、研究職への道を選んだ学生がいることも嬉しく思います。一方で、就職活動の時期には進路に悩んでいる学生もいます。先の先輩のように、背中を押すような言葉をかけてあげられているかわかりませんが、学生から社会人へと人生の転機を見守る立場にいると思うと身の引き締まる思いです。

これまで、「自分にとって苦しい道、挑戦の道」を選んで歩み、夢を叶えています。そこには素晴らしい恩師、仲間、家族の支えがあったのは確かです。これは挑戦の道を歩んだからこそ、実感しているものだと思います。

さて、夢がある人も今はない人も、日々将来に続く選択をしていかなければなりません。人生一度です。ぜひ、自分にとって挑戦の道を歩んで欲しい。きっと大事な仲間が後押ししてくれ、自身のなりたかった姿、またはそれ以上になっているでしょう。

News 第103回薬剤師国家試験の概要

学生課

第103回薬剤師国家試験は、次のとおり実施されます。

試験期日	2018年2月24日（土）及び同月25日（日）
試験地	北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
試験科目	[必須問題試験] 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務 [一般問題試験] - 薬学理論問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理 - 薬学実践問題試験 物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務
合格発表	2018年3月27日（火）午後2時

シラバスにも一部掲載されているように、2017年度後期の試験日程は別表のとおりです。

再試験受験手続が遅れる学生が、例年見受けられます。日程等（再試験手続の詳細は後日掲示で連絡します）をよく確認しておいてください。

「再試験受験許可書・領収書」は、再試験を受験する際に必要です。手続後、再試験受験時まで紛失しないよう大切に保管してください。万が一紛失した場合は、教務課で再発行をしますので申し出てください。

《後期試験等日程表》

年次	試 験	試験期間	合格発表	受験手続日
6	アドバンスト薬学 本試験	1月10日(水) 1月11日(木)	1月19日(金)17:00～ 1月25日(木)24:00 Webによる公開	—
	アドバンスト薬学 再試験	1月31日(水) 2月1日(木)	卒業査定会[2/15(木)]後 成績通知書を配付	1/22(月)・1/23(火)
4	後期試験	1月17日(水)～ 1月19日(金)	1月29日(月)17:00～ 2月4日(日)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月6日(火)～ 2月9日(金)	2月16日(金)17:00～ 2月22日(木)24:00 Webによる公開	1/30(火)・1/31(水)
	前・後期再試験Ⅱ	2月22日(木)～ 3月1日(木)	進級査定会[3/22(木)]後 成績通知書を配付	前期科目:1/30(火)・1/31(水)* 後期科目:2/19(月)・2/20(火)
	OSCE本試験	12月16日(土) 12月17日(日)	別途掲示告知	—
	OSCE追・再試験	3月8日(木)	進級査定会[3/22(木)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
	CBT本試験	1月25日(木) 1月26日(金)	別途掲示告知	—
	CBT追・再試験	3月6日(火)	進級査定会[3/22(木)]後 成績通知書を配付	別途掲示告知
1～3	後期試験	1月19日(金)～ 1月29日(月)	2月13日(火)～ 〔1年次 15:00 2年次 15:30 3年次 16:00〕 2月22日(木)24:00 Webによる公開	—
	後期再試験	2月22日(木)～ 3月1日(木)	進級査定会[3/22(木)]後 成績通知書を配付	2/14(水)・2/15(木)

*：4年次前期科目の再試験Ⅱと後期再試験の受験手続を同時に行なうので、該当者は注意してください。

2017年度の教育後援会総会が、10月7日（土）13時からT31講義室に於いて開催されました。あいにくの空模様ではありましたが、154名の方にご参加いただきました。

はじめに、謝会長、土屋理事長の挨拶があり、後藤学長から大学の近況等について説明が行われ、その後議事に移りました。

まず、2016年度決算と2017年度事業計画案・予算案について報告が行われ、2017年度予算については下表のとおり承認されました。なお、2017年度からの新規事業はなく、昨年度と同じ事業計画となっておりますが、「卒業記念品」や「新入生に贈る分子模型」のモデルを変更いたしました。

議事後、教務部長の秋葉教授から「本学の薬学教育について」、進路支援部長の栄田教授から「本学の就職支援について」の講演が行われ、最後に今西会計監査より閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

参加者からは、「講演の内容を帰宅後子供に話します」「現状や大学の新たな取り組みを知ることができ、とても有意義でした」などの感想が寄せられ、概ね満足いただけた内容であったと思います。

来年度も同時期での開催を予定しております。日程が決まり次第、改めて本誌及び案内状にてご案内いたしますので、多数のご参加をお願い申し上げます。

●2017年度教育後援会予算（一般会計）

項 目	予 算 額	使 途
学生生活支援事業	1,559,000	学生教育研究災害傷害保険料補助
	200,000	保険適用外初診料補助（上記保険適用外の初回治療費を補助）
	1,000,000	学生補助金
	150,000	弔慰金
	1,200,000	課外講座受講料補助（学内で開講する課外講座の受講料の一部を補助）
	200,000	一般図書の寄贈
	500,000	卒業祝賀会への協賛
	1,092,000	卒業記念品の贈呈
小 計	5,901,000	
父母対象事業	600,000	会合費・事務費・郵送料
	1,200,000	学内広報誌KPUNews郵送料
小 計	1,800,000	
教育研究支援事業	923,200	分子模型の贈呈（2018年度新入生対象）
	1,862,000	参考書「治療薬マニュアル」の贈呈（2018年度4年次生対象）
	1,450,000	長期実務実習に向けた追加ワクチン接種代
	1,200,000	白衣授与（2018年度5年次生対象）
小計	5,435,200	
予備費	200,000	
積立金	1,000,000	将来の各種事業に向けた積立金
支出合計	14,336,200	

2015年度新入生から適用されている改訂版モデル・コアカリキュラムでは、次世代の薬剤師が目指すべき姿として「薬剤師として求められる基本的な10の資質」を示し、その1つに「自己研鑽」が掲げられています。薬剤師として薬学・医療の進歩に対応するには生涯学習が必要なのは当然でしょう。

学生の皆様、医療現場の第一線で活躍している薬剤師と共に、2018年度生涯教育プログラムに参加してみませんか？

■おすすめの講座

＊卒後教育講座：実務実習（5年次生）で学ぶべき代表的な8疾患について習得できます。

＊フィジカルアセスメント＜入門＞：患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、これからの薬剤師に必須のスキルとなります。

【生涯教育プログラム】 本学の学生は、卒後教育講座及びフィジカルアセスメント＜入門＞の聴講は無料です。

ﾌﾞﾛｸﾞ 弘名 (定員)		開催日時		テーマ／担当講師		単位	受講料
卒後教育講座 「薬剤師が知って おくべき8疾患」 ～安全で安心な 薬物療法実践に 向けて～ (360名)	第1回 5/20(日) 講演	10:00～11:30 ＜ 90分 ＞	アレルギー疾患に関わる薬剤師の役割～小児アレルギー疾患を中心に～ すずらん調剤薬局 管理薬剤師 京都薬科大学 特命教授 上 荷 裕 広 先生			3	3日間 12,000円
		12:30～14:00 ＜ 90分 ＞	高血圧診療アップデート 京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的 場 聖 明 先生				
		14:15～15:45 ＜ 90分 ＞	心疾患治療の進歩と望まれる薬物治療 京都府立医科大学大学院医学研究科 循環器内科学・腎臓内科学 教授 的 場 聖 明 先生				
	第2回 6/17(日) 講演	10:00～11:30 ＜ 90分 ＞	理想と現実から考える糖尿病薬物療法のありかた 京都第二赤十字病院 糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科 部長 長谷川 剛二 先生			3	
		12:30～14:00 ＜ 90分 ＞	AMR対策に薬剤師として関わるために必要なTips 京都薬科大学 臨床薬剤疫学分野 教授 村 木 優一 先生				
		14:15～15:45 ＜ 90分 ＞	AMR対策に必要な耐性菌の基礎知識 京都薬科大学 学長 後藤 直正 先生				
	第3回 7/1(日) 講演	10:00～11:30 ＜ 90分 ＞	多発性骨髄腫における診療の進歩 独立行政法人地域医療機能推進機構 京都鞍馬口医療センター 院長 島崎 千尋 先生			3	
		12:30～14:00 ＜ 90分 ＞	精神科疾患の概要と精神科医の多様な薬剤選択 国澤こころのクリニック 院長 国澤 正寛 先生				
		14:15～15:45 ＜ 90分 ＞	脳梗塞急性期治療と慢性期再発予防 京都第二赤十字病院 脳神経内科 部長 永金 義成 先生				
	フィ ア ジ セ ス メ ン ト	＜入門＞ 講義 (100名)	7/29(日) 9:30～15:30 ＜280分＞	薬の適正使用につなげるフィジカルアセスメント 1. フィジカルアセスメント「総論」 2. 患者の状態把握「各論：問診をとる、バイタルサイン収集、疾病の基礎」			
	＜アドバンス＞ 実習 (40名)	10/14(日) 9:30～16:00 ＜315分＞	薬剤師だから気付くフィジカルアセスメント (講義) 入門コース復習、(実習) 患者のバイタルサイン情報収集手技の習得、 (SGD) 症例検討・発表			3.5	10,000円
漢方講座「漢方治 療の臨床力を身に つけよう」(50名)		日程未定 (8月～12月の日曜開催) 全4回 講義 ＜300分/日＞	＜詳細未定＞対象：漢方治療に関心のある薬剤師 テーマ：10:00-11:40 入門的内容、12:30-14:10 薬局薬剤師に役立つ内容、 14:20-16:00 臨床医からの症例報告			3/日 全12	4日間 20,000円
臨床研究支援 セミナー ＜基礎技能編＞ (50名)		9/9(日) 講義＆PC演習 12:00～17:00 ＜270分＞	(講義) 薬剤師による臨床研究～計画の立て方と研究の進め方の実際～ (演習・SGD) 臨床試験計画の立て方の実際 (PC演習) 臨床研究のためのデータ解析技能～統計計算手法の習得と結果の解釈～ 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター長・教授 矢野 義孝 先生 助教 松村 千佳子 先生、助教 地崎 悠吾 先生 情報処理教育研究センター長・教授 藤原 洋一 先生 講師 石川 誠司 先生			3	5,000円
実務支援セミナー (20名)		2019年2/24(日) 実習 12:00～17:00 ＜270分＞	注射薬の無菌混合調整 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター 講師 本橋 泰之 先生他			3	5,000円

WEB配信 【eラーニング講座】

WEB配信期間	テーマ	単位	受講料
2018年11/1(木)～2019年1/31(木)	本学で開催した「卒後教育講座」を、演者の承諾のもと、著作権・プライバシー等に配慮して編集したものを配信。	30 予定	15,000円

【公開講座】

プログラム名	時 間	テーマ	単位	受講料
第24回公開講座	10/20(土)13:00～16:30	講演、薬用植物園御陵園見学	なし	無料

＊詳細はホームページ (<http://skc.kyoto-phu.ac.jp/>) をご参照ください。

＊プログラム内容等は変更される場合があります。

■お問合せ先：京都薬科大学生涯教育センター

E-mail：skc-web@mb.kyoto-phu.ac.jp

TEL：075-595-4677 (TEL受付時間 平日のみ 10:00～16:00)

FAX：075-595-4683 (24時間受付)

■はじめに

本学は、創立100周年及び120周年記念事業等で購入又は歴代の卒業生等から寄贈された美術品、書、工芸品等を70点余を所蔵していますが、理事長室、会議室、愛学館1階エントランスや3階ラウンジにその一部を展示しているものの、普段、学生及び職員が鑑賞できる状態にはなっていません。

また、これらの美術品等は、本学の「固定資産」として登録されてはいますが、本学が購入したものを除き、取得時のデータが殆ど記録されておらず、作品名、作者、制作時期等が不明なものが多々あり、保管・管理状況もあり好ましいものではありませんでしたので、2017年8月に、資産の適正管理を目的として、事務職員有志9名による“お宝探偵団”（団長：山下事務局長）を結成し、資産台帳と現品との照合をはじめ、埋もれた（未登録の）美術品等を調査し、併せて、正しい作品名及び作者の解明、写真撮影や寸法計測などを実施しました。

これらの調査を踏まえ、本学所蔵の美術品等のうちから、今もその名を残す作家の作品を中心に、KPUNews編集委員会のご理解を得て、何点かを「京葉コレクション」としてシリーズで皆様方に紹介させていただきます。



ずいかく
作 品 名 『瑞鶴』
作 者 西村昭二郎
規 格 紙本彩色
P30号

西村昭二郎（にしむら しょうじろう）
1927～1999年 京都市出身 日本画家
1944年京都市美術工芸学校（現京都市立芸術大学）絵画科を修了し、東京美術学校（現東京芸術大学）日本画科に入学。その後、数々の美術展において種々の賞を受賞。1982年から1991年まで筑波大学芸術専門学群芸術学系（日本画）の教授を務める。千葉県教育功労賞

本作品は、資産台帳には本学が購入したとの記載があるものの、購入先や購入理由（経緯）等の記録は残されていない。

作者の西村昭二郎氏は、本学の1943（昭和18）年の卒業生である西村良美氏の実弟であり、西村良美氏から、本学創立120周年記念行事に参加する際に「（本学が所蔵する）弟昭二郎の作品である『鶴一直線』を拝見したい旨」の“はがき”が本学に残されている。

このように、本作品の作品名は、当初『鶴一直線』という名で登録されており、前述の西村良美氏の“はがき”にもそのように記載されているが、2017年8月の調査において、キャンパス裏面に作者の氏名とともに『瑞鶴』と記載されていたことを発見したことから、この機会に作品名を『瑞鶴』に改めることとした。なお、西村昭二郎氏の作品は、本学所蔵品の中にもう1点『紅白梅』がある。

2018年度推薦入学試験結果

Report

入試課

2018年度推薦入学試験の内、指定校制推薦入学試験が2017年11月13日（月）に、一般公募制推薦入学試験は11月18日（土）に実施され、11月28日（火）に合格発表が行なわれました。

その結果は次のとおりです。

	募集人員	志願者数	合格者数
指定校制推薦	50名	52名	52名
一般公募制推薦	80名	291名	80名

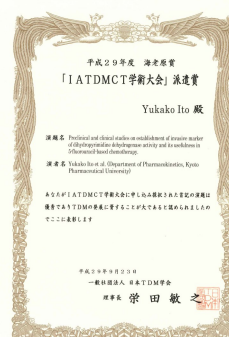
■ 「IATDMCT学術大会」派遣賞（海老原賞）を受賞

2017年9月23日に開催された「日本TDM学会」において、薬物動態学分野の伊藤由佳子講師が「IATDMCT学術大会」派遣賞（海老原賞）を受賞しました。

受賞者：薬物動態学分野 講師 伊藤 由佳子

演題：Preclinical and clinical studies on establishment of invasive marker of dihydropyrimidine dehydrogenase activity and its usefulness in 5-fluorouracil-based chemotherapy.

演者：Yukako Ito, Shinji Kobuchi, Shigeru Horiguchi, Hironari Kato, Hidenori Shiraha, Toshiyuki Sakaeda



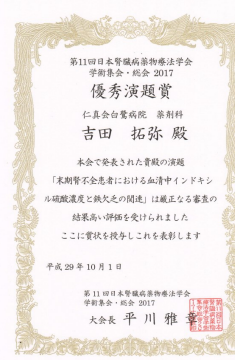
■ 第11回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2017において優秀演題賞を受賞

2017年9月30日～10月1日に福岡で開催された「第11回日本腎臓病薬物療法学会学術集会・総会2017」において、臨床薬学分野の吉田拓弥さんが優秀演題賞を受賞しました。本研究は、本学臨床薬学分野と仁真会白鷺病院の共同研究によるものです。

受賞者：臨床薬学分野 博士課程4年次生 吉田 拓弥

演題：末期腎不全患者における血清中インドキシル硫酸濃度と鉄欠乏の関連

演者：吉田 拓弥、辻本 雅之、川上 祥代、入江 裕子、中谷 沙紀、藤岡 春乃、磯 亜耶子、杉山 絢香、三宅 瑞穂、隅野 和美、田中 梨恵、小田 智子、橋本 湖澄、古久保 拓、和泉 智、山川 智之、峯垣 哲也、西口 工司



■ “STRESS: PHYSIOLOGICAL EFFECTS, PATHOLOGICAL CONSEQUENCES AND THEIR PREVENTION” Symposiumにおいて若手優秀発表賞を受賞

2017年10月10日～13日にサンクトペテルブルク（ロシア）で開催された「“STRESS: PHYSIOLOGICAL EFFECTS, PATHOLOGICAL CONSEQUENCES AND THEIR PREVENTION” Symposium」において、薬物治療学分野博士課程3年次生のNahla Hamoudaさんが若手優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：薬物治療学分野 博士課程3年次生 Nahla Hamouda（ハモウダ ナハラ）

演題：Apoptosis, dysbiosis, and expression of inflammatory cytokines are sequential events in the occurrence of 5-fluorouracil-induced intestinal mucositis in mice

演者：Nahla Hamouda, Kenjiro Matsumoto, Kikuko Amagase, Shinichi Kato

■ 第7回食品薬学シンポジウムにおいて優秀発表賞を受賞

2017年10月28～29日に本学で開催された「第7回食品薬学シンポジウム」において、生薬学分野博士課程3年次生の深谷匡さんが優秀発表賞を受賞しました。

受賞者：生薬学分野 博士課程3年次生 深谷 匡

演題：伝承薬物を素材とした硫黄原子を含む生体機能性成分の探索

演者：深谷 匡、中村 誠宏、松本 朋子、林 雅子、中川 涼太、中嶋 聡一、松田 久司

■ 第7回食品薬学シンポジウムにおいて優秀ポスター賞を受賞

2017年10月28～29日に本学で開催された「第7回食品薬学シンポジウム」において、生薬学分野博士後期課程3年次生の尾田好美さんが優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞者：生薬学分野 博士後期課程3年次生 尾田 好美

演題：モリンガの機能性開拓研究—アシル化グレリンの分泌調節作用および神経細胞様分化促進作用—

演者：尾田 好美、中嶋 聡一、中村 誠宏、矢野 真実子、太田 智絵、松田 久司

■ 日本薬学会近畿支部大会において本学の学生5名が優秀ポスター賞を受賞

2017年10月14日に兵庫医療大学で開催された「第67回日本薬学会近畿支部大会」において、本学の学生5名が優秀ポスター賞を受賞しました。

受賞者：代謝分析学分野 6年次生 林 梨沙

演 題：コラーゲン様 3 重らせんペプチド結合型白金錯体の体内動態解析と腹膜播種担がんマウスにおける抗腫瘍効果

演 者：林 梨沙、増田 亮、能勢 博、 田口 晃弘、林 良雄、小出 隆規、安井 裕之

受賞者：代謝分析学分野 6年次生 原口 知子

演 題：コラーゲン分子の光酸化的クロスリンクに対するイミダゾールジペプチドの抑制効果

演 者：原口 知子、小林 数也、赤路 健一、安井 裕之

受賞者：細胞生物学分野 4年次生 前田 佳子

演 題：カポジ肉腫関連ヘルペスウイルスにおけるウイルス性開始前複合体タンパク質の相互作用解析

演 者：前田 佳子、渡部 匡史、藤室 雅弘

受賞者：公衆衛生学分野 4年次生 石田 朋子

演 題：九州北部における大気中のタンパク、エンドトキシン等と喘息発作との関連性

演 者：石田 朋子、植島 由希子、 児玉 歩奈美、河瀬 裕美、モハマド シャリアカーン、山村 由貴、世良 暢之、後藤 貴央、平川 雅章、松本 崇宏、長谷井 友尋、渡辺 徹志

受賞者：衛生化学分野 4年次生 神谷 育実

演 題：Polyethylene glycol (PEG) 修飾リポソーム化 oxaliplatin 投与ラットにおける甘味感受性の変化に関する研究

演 者：神谷 育実、牧野 愛美、大石 晃弘、西田 健太郎、土井 祐輔、安藤 英紀、石田 竜弘、長澤 一樹

■ 4大学連携研究フォーラムにおいて本学の学生2名が最優秀賞および優秀賞を受賞

2017年11月14日に京都府立医科大学で開催された「第7回4大学連携研究フォーラム」ポスターセッションにおいて、本学の学生2名が最優秀賞および優秀賞を受賞しました。

【最優秀賞】

受賞者：病態生理学分野 博士課程2年次生 黒田 絵莉子

演 題：マウス末梢血造血幹細胞からミクログリア様細胞への分化誘導法の構築とその機能解析

演 者：黒田 絵莉子、高田 和幸、河西 翔平、戸田 侑紀、芦原 英司

【優秀賞】

受賞者：生薬学分野 博士課程1年次生 笠 香織

演 題：ショウガ主要成分 [6]-gingerolの絶対立体配置の確認および誘導体の抗炎症作用

演 者：笠 香織、中村 誠宏、中嶋 聡一、松田 久司

News お知らせ

■ 人事異動

採用

薬学教育系教育研究総合センター

学生実習支援センター 助教 高田 哲也

(任期：2017. 10. 1～2022. 9. 30)

任命

分野主任

病態薬科学系薬理学分野 准教授 藤井 正徳
(2017. 9. 1付)

退職

病態薬科学系薬理学分野 教授 大矢 進
事務局庶務課 主事 後藤 慶子
(以上2017. 8. 31付)

生命薬科学系衛生化学分野 講師 西田 健太郎
(2017. 9. 30付)

以上

■ 2017年度動物慰霊祭

10月31日（火）に、本校地の動物慰霊碑前において、2017年度動物慰霊祭を執り行いました。

当日は、当麻寺の増田宗雄住職をお迎えし、読経をいただきました。

土屋勝理理事長、後藤直正学長、赤路健一副学長、山本昌バイオサイエンス研究センター長をはじめ職員、多くの学生が次々と焼香をし、日頃教育・研究に貢献をした多くの動物達に感謝と慰霊の念をこめて冥福を祈りました。

基礎演習（1年次科目）での学外活動の一環で、地域の小学校に訪問して薬物乱用防止教室を開催しました。

薬物乱用の問題が若年化する昨今、小学校においても薬物乱用防止教室が警察等の力を借りて行われていきます。しかし、それよりももっと根本的な問題（薬を体に入れる意義・意味を自分で調べて考えること）を小学生に考えてもらう機会にしたいとのことで、以下のとおり企画・実施しました。

将来、薬剤師として薬物乱用防止教室を企画・実施する立場となる本学の学生にとっても、どのように行えばいいのか、を考えてもらうために実際に自分で教えることを体験してもらいました。大学生と小学生互いに目を輝かせて取り組んでいたのが印象的でした。

■小学3年生（35名）対象

タイトル 「おくすりを使う時・のむ時の注意」

内容：導入（おくすりをなぜのむの？どんな形があるの？）

おくすり〇×クイズ（3問）

おくすり実験（緑茶と鉄剤、オレンジジュースと胃薬、くっつくカプセル）

班ごとに学んだことの振り返り

発表

■小学6年生（32名）対象

タイトル 「カフェインについて学ぼう」

内容：導入（カフェインは何に入ってる？カフェインのプラス効果）

カフェインクイズ（どの飲み物が一番多いでしょう？）

カフェイン量調べ（緑茶、コーヒー、コーラ、エナジードリンク、薬）

説明（カフェインのマイナス効果）

班ごとに学んだことの振り返り

発表



＜小学6年生＞
自己紹介と授業内容の説明



＜小学3年生＞
グループ（学生1名+小学生4名）ごとにお薬実験

News お知らせ

■ 保険会社の社名変更のお知らせ

「学生総合保障制度」の引受保険会社が合併により新たにAIG損害保険株式会社となりました。

※住所、担当者等に変更はございません。

【問い合わせ先】

AIG損害保険株式会社

〒530-0011 大阪府大阪市北区大深町3-1

グランフロント大阪タワーB 35階

大阪法人営業第一部 岡崎・石本

私は2年次の春休みに、沖縄科学技術大学院大学（OIST）のサイエンスチャレンジ2017（3月6日～10日）に参加しました。最初、先生からこのようなプログラムがあるから参加しては？と紹介を受けたとき、正直参加したいとは思いませんでした。なぜなら、このOISTのサイエンスチャレンジの参加資格を得るためには、自身の科学における将来の夢を、英語でスライドを作成しまとめなければならなかったからです。僕は英語が苦手です。英文を読むのにも一苦労だし、ましてや英文を自分で書くとなると何とも思い浮かびません。紹介いただいてから幾月か経ったあと、一度OISTとはどんなところか気になったのでホームページを見てみました。するとそこには多くの外国人やその外国人たちと活発に議論している日本人、研究が面白くなりそうな施設、おしゃれなカフェ、2年次の私はまだ見たことのない機器などが掲載されていました。もしこのプログラムに参加したら楽しいだろうなと興味を惹かれました。幸い、応募の締め切りはまだでしたので、先生に添削してもらいつつ完成した「私の科学における将来の夢」を提出しました。そして通るかどうかわからない不安にかられながら結果を待っていましたが、なんとか審査に通り一人荷物をもって沖縄に飛びました。沖縄～大阪間の飛行機代や宿泊施設はすべてOISTが用意して下さるとのことだったので両親もすぐに承諾してくれました。



実験中（▲：筆者）

サイエンスチャレンジ プログラムでは、自分が興味を持つ研究室を2つ選んで（私は医学生物学系と物理学系を選択）見学をし、他の参加学生とグループを作り簡単な実験を行ってその内容を発表しました。生物系の研究室では、外国人研究員の方々の実験を見せて頂き英語で説明をうけました。物理学系の研究室では、水滴に関する公式の導出を、先生と僕たち参加者が議論して考えました。また台風の目とその周囲を再現する機器や、乱流を起こすための数十メートルはある細長い管など、薬学ではまず見ることはないであろう機材が大量に並んでおり、とても興味深いものでした。また、応募時に提出した「What is your science dream?」のスライドを、OISTの研究員や大学院生とディスカッションして練り直し仕上げて、「Relation

of Cancer & Hydromechanics」という題名で発表しました。慣れない英語でプレゼンをして、参加者やOISTの先生、研究者の方々とディスカッションしたときの感動は忘れられません。

私は当時2年次生だったので、このプログラムを紹介して下さった先生は、年上の学年ばかりだろうとおっしゃっていました。実際、参加者27名のうちほとんどが年上で、一番最年長は大学院修士課程2年次生（京大の学年で言い換えると6年次生）の女性の方でした。参加者の大学は様々で、北は北海道大学、南は琉球大学、関西圏からは同志社大学、立命館大学、大阪大学、関東圏では東京大学、群馬大学など全国からの大学生が参加していました。このうち東大と立命館大の方は薬学部だったので、すぐに話が通じて意気投合できました。参加者の皆さんとはとても話やすく、すぐに打ち解けあっていきました。ただ、施設の紹介、スライドの作り方の講義、発表などプログラム中はすべて英語で、さらには仲間と議論を行う時、翌日の連絡事項まで全てが英語だったので、ついていくのに一苦労でした。自分ももちろん英語で話す必要があり、ジェスチャーを交え、四苦八苦して自分の考えを伝えました。OISTでは、アメリカ、フランス、サウジアラビア、イギリス人など多くの外国人研究者がいて、日々研究に邁進されておられます。そこではすべての意思疎通が英語を通じて行われ、日本語は一切登場しません。日本にいるのにそこはまるで外国でした。ここでは僕が持っている英語力では何もできないことを思い知り、ショックを受けましたが必死に思いを伝えようとすると相手には必ず伝わったことも事実です。この場所で僕は世界共通語というものを知りました。

いろいろな大学、専攻分野の異なる人たちと議論したり、身の上話をしたりと、自分の視野が今まで以上に広がりました。日常的に英語で会話することに苦はなくなり、学内、街中でも積極的に外国人と話すようになりました。この経験を活かし、今は講義のみならず、研究室活動に精一杯、取り組んでいます。OISTサイエンスチャレンジ2018は、現在募集中のようですので、是非皆さんも1歩を踏み出されてはいかがでしょうか？



5日間のプログラムを終えた仲間達と

上尾 庄一郎様から石灯籠をご寄付いただきました

Report

理事長 土屋 勝

石灯籠には、「皇紀二千六百年（1940年） 庚辰秋十月 柳馬場六角 上尾庄兵衛 建之」と銘が刻ま
れており、本学愛学館前、上尾庄兵衛様 頌徳碑の
並びに設置しています。

歴史を感じさせる大変立派な石灯籠です。ぜひ、皆様も一度ご覧になって下さい。

なお、上尾庄兵衛様は、大正2年（1913年）以来、私立京都薬学校・京都薬学専門学校を通じ30余年間経理の重責を担い専心母校の運営と発展に尽された功労者で、頌徳碑にはその功労を称えた銘文が刻まれています。



私

の薦める、私の一冊



Column

代謝分析学分野 教授 安井 裕之

小熊英二 著『社会を変えるには』

講談社現代新書 (2012)

本書のタイトルだけを見れば、社会革命家の思想や行動が書かれている過激な内容の書籍を想像される人が多いかも知れません。一方で、今の社会を変えたい、と何となく日頃から思っているけれども、実際には自分の力で変えられるとは思えない。そもそもどうやれば「社会を変える」ことになるのか分からないと心に抱いている人も多いのではないのでしょうか。本書は、後者に当たる人たちに、「そもそも社会を変えたいというのは、具体的にどういうことで」、「現代において社会を変えたいとは、具体的にどういうことか」を少し真面目に考えたり行動してみたりするためのヒントを与えてくれます。

注目すべきは、著者の小熊英二氏（慶応義塾大学総合政策学部 教授）が、2011年に発生した未曾有の東北大地震と福島原発事故の後に本書を出版している事実です。ポスト2011年の日本は、それまでの日本とは違う社会の方向へシフトしていく発想を広げる必要があるのでは、と思った人が本学にも多いでしょう。その変化のスピードが、緩やかなのか急なのかは全く見当が付きませんが、若い世代が変化の必然性を考える大きなきっかけになったのは間違いありません。

社会を変えてみたいのなら、近代から現代にかけて日本の社会が変遷してきた歴史を正確に知る事がまず必要です。小学校から高校までの間に日本の近

代史や現代史をじっくりと学んできた経験を持つ若い人がほとんどいないのですから尚更です。そして、もっと知ってほしい事は、社会を構成する個々の単位である、自分と他者との関係性の大きな変化です。例えば、家庭、友達、学校、職場、地域社会、国家といった構成員の数が少ない集団から多い集団まで、現代では集団内の人間関係が根本から本質的に変化してきています。もはや、「私がいて、あなたがいて」と言った最初に個人がいてそこから始まる関係性ではなく、「集団の中で始めから存在しているのは相互関係のみで、そこに当てはまる主役と相手役が事後的に決まる」世の中になってきています。この「個体論の発想から関係論の発想」への変化の方が、より大きなパラダイムシフトであって、21世紀の国内や海外の市民社会のベースになっていくでしょう。そこでは、人々がより自由になって個人の選択は増大している様に見えますが、単に「選択肢が増えた」というより「選択できることを意識するようになった」というのが本当のところなのです。

こんな風に本書を紹介してみても手に取る人が増えてくれるのかは予想できませんが、7章構成の中で最後の第7章から読んでみてもいいでしょう。そこには、皆さんが一番関心のある現代日本のことが書いてあります。そこから前の各章に戻って読むのもいいと思います。あるいは、そもそもデモクラシーってなんだ、日本にはどんな風に導入されたのか、ということに関心のある人は、そこから眺めてもいいでしょう。

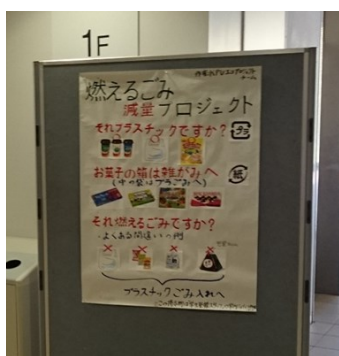
※本書は入荷次第、図書館内の本誌推薦書コーナーに展示いたします。

2017年9月より、学生に正課外で活躍できる場を提供することを目標に、学内で活動できるボランティアやアルバイト情報(学内ジョブ)を発信しております。現在、「通学マナー啓発スタッフ」「KPUエコプロジェクトスタッフ」「進路支援課ランチョンガイダンススタッフ」「食堂新メニュー企画スタッフ」等の学内ジョブを募集し、多くの学生に参加頂いております。

今後も、続々と新たな学内ジョブを発信いたしますので、ぜひお気軽にご参加下さい。下記、実施した学内ジョブの紹介をさせていただきます。

■ 通学マナー啓発スタッフ

9/15(金)より2週間、通学マナー啓発スタッフによる朝のあいさつ運動と通学マナーの注意喚起チラシの配布活動を行いました。爽やかな初秋の朝に、学生の元気な挨拶の音が響き渡り、学生の通学マナーアップの意識付けができました。今後も、京薬生・医療人として他人への心配りを忘れないようにしましょう。



■ KPUエコプロジェクト

10/14(土)に「KPUエコプロジェクト」を開催し、学生スタッフによるごみ減量に向けた調査及び検討を行いました。

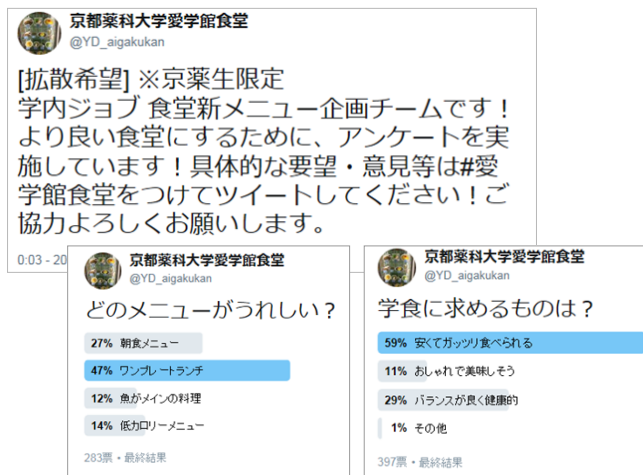
最初に「しまつのこころ条例」に関する研修を受けた後、実際に学内のごみ箱をチェックして、ごみの分別状況を確認しました。その結果、多くのリサイクルできる「プラスチックごみ」「雑がみ」が分別されずに「燃えるごみ」として捨てられていることが判明しました。

そして、実地調査した結果を踏まえて、学生スタッフ主導のもと、ごみ分別の啓発ポスターを作成しました。躬行館食堂の前に掲示しているので、目にした方もおられると思います。

試験前は飲み物やお菓子(プラごみ)、メモ用紙(雑がみ)のごみが増えてきます。よりよい大学、よりよい京都市のために、ごみの分別へのご協力をお願いします。

■ 学食新メニュー企画スタッフ

10/26(木)より、新たな学内ジョブ活動として、11名の学生スタッフが学食新メニューを企画しております。お昼休み等集まり、賑やかに会議をしており、現在はTwitterや学内に設置した紙面アンケートで、新メニューに対するニーズ調査をしています。ぜひ、学生・教職員の皆様もご協力を頂き、学生発信の新メニューの完成を楽しみにして下さい。



“学生登録スタッフ”募集中！

興味のある方は、学内のポスターやWeb掲示板を確認いただくか、学生登録スタッフ事務局(愛学館1階事務室担当者)までお問い合わせください。

マンドリン部

こんにちは、マンドリン部です。新春のお慶びを申し上げます。

マンドリン部はマンドリン、マンドラ、セロ、ギター、コントラバスでオーケストラを組み演奏しています。大学から楽器を始めた部員がほとんどですが、部員同士で協力して練習し、技術顧問の先生からの指導を受けるなどして積極的に活動しています。昨年の10月の定期演奏会や11月の文化祭発表を無事終え、現在は入学式での演奏に向けて準備をしています。

また、今年10月に第90回記念定期演奏会を開くことになりました。部員一同、素敵な演奏会になるよう励んでまいります。詳細は部のtwitterなどに挙げてまいりますのでご覧ください。

TwitterID: @kpu_mandolin

サイクリング部

10月1日、サイクリング部OB会が開催されました。今年は45周年ということで、躬行館食堂で食事会という形で行われました。

現役生は、御陵園や130周年記念館の見学会、新校舎や現在の大学についてのプレゼンテーションをお手伝いさせていただきました。プレゼンでは過去の大学の姿や先輩方の活動を垣間見ることができ興味深く、先輩方とお話する時間も多く貴重な経験でした。初代の大先輩もお見えになり楽しそうな活動のお話を聞き、これからの部活動をもっと活発にしていきたいと感じました。

45年の歴史はまだ20歳の私には想像もつかないものですが、一同に介した先輩方を見てその長い歴史を肌で感じることができ、私達が歴史を繋いでいかなければならないと強く思いました。

硬式野球部

こんにちは、硬式野球部です。硬式野球部では、春季リーグ、秋季リーグに向け、部員一同切磋琢磨して日々練習に励んでおります。

練習は、平日は火曜日～金曜日の12時30分から15時までおこなっており、休日は土日のどちらかで、主に午前中に練習しています。

リーグ戦以外にも一年間の行事として、夏には四大学合同の合宿、また、練習試合や、OBの方々を招いて行うOB戦などがあります。

詳しい試合情報に関しましてはtwitter、BBS等お知らせしておりますのでそちらをご覧ください。練習の成果を発揮し、熱い試合ができると思いますので、ぜひ一度試合観戦にいらしてください！！

硬式庭球部

活動実績

第71回 関西薬学生連盟硬式庭球大会 男子団体の部 優勝／女子個人の部 優勝

第12回 春季関西地区コメディカル硬式テニス大会 女子団体3位

今後の予定

2018年3月 第13回 春季関西地区コメディカル硬式テニス大会(女子のみ)・春合宿

8月 第72回 関西薬学生連盟硬式庭球大会

陸上部

2017年度 活動実績

全日本薬学生対抗陸上競技大会 (2017. 5. 5)

男子

1500m 決勝3位 松井宏泰 4位 清水長智

女子

100m 決勝3位 鈴木諒子

4×100mR 決勝2位 矢野・鈴木・荒木・嵯峨山

関西薬学生対抗陸上競技大会 (2017. 8. 19)

男子

100m 決勝2位 野村航也

200m 決勝2位 坂口雅弥

400m 決勝1位 勝山陽介

1500m 決勝3位 松井宏泰

5000m 決勝3位 清水長智

女子

100m 決勝3位 鈴木諒子

200m 決勝3位 嵯峨山理紗

800m 決勝1位 林千晶 3位 荒木万輪

3000m 決勝1位 田中里奈

2017年度もたくさんの部員が表彰されました。これからも日々競技力の向上に努めていきます。また、先月に学内駅伝が行われ、現役部員は駅伝準備を通してたくさんの経験をすることができました。ご参加頂いた選手の皆様、本当にありがとうございました。

管弦楽部

こんにちは、管弦楽部です。管弦学部では初心者から経験者まで様々な学生が集い、年に一度行われる定期演奏会に向け練習しています。昨年11月には皆様のご理解・ご協力のもと第45回定期演奏会で交響曲ヴェートーベン第5番『運命』をメインに3曲演奏させていただきました。思い通りにならないこともいっぱいありましたが、皆で意見を出し合いながら真剣に音楽と向き合い、多くの壁を乗り越えてきました。演奏会では普段と違うホールの響きを楽しむことができました。

定期演奏会の他にも京葉祭ではクラシック以外の曲に挑戦したり、式典等の学校行事や施設でのボランティア演奏の機会も積極的に設けています。また、大学生活を一緒に過ごす同期だけでなく、先輩後輩、さらにはOBOGまでつながりは広く色々な方と交流することができます。普段はアットホームな雰囲気部の部活ですが、時には皆で意見を出し合いながら真剣に音楽に向き合い、時には勉強・バイト・遊びに…とメリハリの効いた大学生活を送ることもできます。大学生活の熱い思い出をつくりたい方、気軽に音楽を楽しみたい方、只々音楽が大好きな方。どんな方でも大歓迎です。興味のある方はぜひ一度遊びに来てください。



水中でぶっぶっ

～ 第5話 ～

～ 北斎を巡るR波的衝動 ～

学長 後藤 直正

季節を考えずに興味の向くままにすでに4話。そして、相も変わらぬ自己中で第5話、ブツブツ二周目の正月、KPU NEWS新年号とくりゃ、めでたい！富士山。江戸後期の絵師、葛飾北斎には、大波の(神奈川沖浪裏)、大樽の(尾州不二見原)、投網引く(甲州石班沢)、木引く(遠江山中)――向こうに富士が見える富嶽三十六景がある。売れる絵を描いたんだろうが、「ほんとのとこ、北斎はなにを描きたかったん」と自問。答えを見いだすには北斎を知らねばなるまい。小難しい研究本は無理、ITが何冊かの本をご提案。まずは簡単そうな「百日紅(杉浦日向子著、ちくま文庫)」。A社-Y運輸の連携で漫画と知った。まあええわ、今どき、おじさんが漫画でも気にも留められん。が、電車の中で好奇の視線。わあーお、繰った左の頁に湯屋の入浴画、女人は一人ではない(それも色気豊満、日向子さんの絵)。両の瞳の拡大を悟られぬよう先に、また出た。庭先の行水。そんなこんなで、三女応為(栄女)を取り巻く北斎と糸の切れた風溪斎英泉、江戸風俗を垣間見るに十分であった。つぎに「眩(朝井まかて著、新潮社)」を学びたくなった。が、単行本は重い、立って片手では

手首が痺れる、鞆が膨らむ、そして高い。文庫発刊まで待て、いやいま、いやいや重大高。葛藤の数か月、本屋で「吉原格子先之図(応為画、紙本彩色一幅、太田記念美術館所蔵)」がカバーされているを見、花魁に誘われ、買ってしまった。貧乏を屁とも思わず、すべては描くことにある北斎親子の姿が見える。西洋の画紙・絵画技法で多数の絵を描くというオランダ商館長の奇想の注文に応じて、北斎、応為、弟子と手分けした絵が本意に達せず、悔いる応為と弟子に、まかてさんは北斎に「だが、たとえ三流の玄人でも、一流の素人に勝る。なぜだかわかるか。こうして恥をしのぶからだ。己が満足できねえもんでも、齒あ喰いしばって世間の目に晒す。やっちゃったもんをつべこべ悔いる暇があったら、次の仕事にとっとと掛かりやがれ」という台詞を吐かせた。そうか、プロは恥を忍んで晒すか！昔日、中途半端なことは百も承知の学会発表、先輩曰く「味噌のない味噌ラーメンやなあ」、うどんと言われんでええやんと居直った。これが三流の玄人への一里塚やったんか？と反芻する新年。



News 京薬会だより

＜ホームカミングデーの開催＞

今年度も母校の大学祭「京薬祭」にあわせて11月5日(日)に第8回ホームカミングデーを開催しました。

今回は、歓迎セレモニーにおいてはまず西野京薬会会長、土屋京都薬科大学理事長の挨拶に引き続き後藤学長より大学の種々の取り組み、ならびに国家試験の結果、進路状況の紹介など大学の近況について紹介があり、そして自治会より岸田祐樹さんの歓迎挨拶がありました。

講演会では医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、昭和大学薬学部客員教授野口隆志先生により「薬害に学ぶ医薬品・薬剤師に関する規制―クスリはリスク―」と題しての講演があり、また、今年も昨年に引き続き国際交流推進室にご協力をいただき米国ボストンMCPHS大学(Massachusetts college of Pharmacy and Health Sciences)のサマープログラムとドイツフライブルグ大学での短期留学プログラムに参加した学部学生による留学報告もあり、参加した卒業生の皆さんから大きな反響がありました。

会場を移して行われた歓迎パーティーでは、受付時に参加者にお配りしたチケットを使って学生の出

張販売を購入したり、また、模擬店に繰り出したりと、卒業生同士また、卒業生と在学生の交歓が随所に見られ、非常に和やかな会となりました。なお、お配りしたチケットは各クラブ、サークルに現金として還元し、活動の援助を行っております。

今回もたくさんの卒業生にご参加いただき盛会となりました。また、この会にあわせて愛知支部総会、昭和45年卒同窓会も開催され、ミニ同窓会を開催したり、同期の仲間で誘い合わせて参加し、歓談したり、といった光景もあり、このような形でもこの会を利用していただけたらと思います。次回もまた新しい企画を用意し、11月初旬の京薬祭に合わせて開催しますので、お誘いあわせの上母校にお越しください。卒業生の皆さんの多数の参加をお待ちしています。

＜京薬祭への協賛ならびに優秀クラブ表彰＞

11月4、5日の両日、京薬会協賛の「京薬祭」が盛りだくさんの企画で開催され、催し、模擬店と夜遅くまでにぎわいました。

京薬祭の2日目には、恒例の京薬会によるクラブ表彰が行われ、今回は優秀クラブとして、「陸上部」、「京炎そでふれ 京躍華」そして「マンドリン部」が選ばれ、副賞を添えて表彰しました。

下記の方々からご寄附をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。

* 高額のご寄附（10万円以上）を頂いた方は、京都薬科大学奨学金規則及び学生便覧に掲載させていただきます。

* 敬称略、芳名のみ掲載しております。

2017年9月～2017年11月にご寄附をお寄せいただいた方々

＜卒業生・同期会等（卒業年次順）＞

石黒 道彦(昭19)	福田英美子(昭37)	佐中 玲子(昭41)	横田 博三(昭46)	宮本 博之(昭61)
安藤 寛治(昭29)	本岡美智子(昭37)	森 道子(昭41)	小林 元樹(昭47)	金口 朋代(昭62)
布浦 由樹(昭31)	片岡 幸八(昭39)	北澤 節子(昭42)	吉田千枝子(昭47)	張 賢二(平01)
鵜山 邦子(昭32)	鈴木須美子(昭39)	黒田 省五(昭42)	米満 弘夫(昭47)	楠山 龍(平05)
岩崎香代子(昭33)	中尾 敬子(昭39)	谷口 睦子(昭42)	榎本 律子(昭49)	加治工佳代子(平10)
辻 勝蔵(昭34)	増田 淑子(昭39)	山口 博行(昭42)	袖岡 茂徳(昭49)	三谷 高徹(平12)
渋谷 禎彦(昭35)	松本 静子(昭39)	小西 富康(昭44)	青井いづみ(昭50)	富山 剛(平14)
吉田 壽子(昭35)	岡本 昇(昭40)	小西 芳子(昭44)	田島 正剛(昭51)	松岡 義弘(平22)
鎌倉 嘉男(昭36)	野口 隆志(昭40)	高越 清昭(昭44)	福岡太英子(昭52)	真鍋 和樹(平28)
伊藤 武宏(昭37)	野口 紘子(昭40)	稲垣 美幸(昭45)	関本 力(昭54)	
川原保子(昭37)	伊藤 悦子(昭41)	岡本 憲治(昭45)	伊東 哲子(昭56)	
中村 悦子(昭37)	貴宝院善博(昭41)	石野 孝行(昭46)	坂本美智恵(昭57)	

＜京薬四三会卒業50周年記念募金（昭和43年卒業生）（五十音順）＞

浅田 勝彦	北村 孝久	竹澤 豪氣	中村眞喜子	前信加代子
入江 一充	木原千寿子	谷川 且	難波 麗子	松田 知久
上田 至宏	久米 光	都築 澄子	新矢 時寛	的場 宏和
岡 伸子	久米 和子	東條 信子	野口 卿子	薮田 孝子
片倉 知子	小西 富康	富永 護	濱野 大助	吉田 高子
門脇 美晴	高島 信行	富永 享子	古本 靖弘	

＜京薬六三会卒業30周年記念募金（昭和63年卒業生）（五十音順）＞

石田弥寿子	串田 ゆか	長澤 好美
大井 貴子	長澤 一樹	山上 信幸

＜企業・団体・一般＞

株式会社ダイゴ

＜法人役員・評議員・職員等（五十音順）＞

大原 松雄(監 事) 土屋 勝(理事長) 森 新(評議員) 森田 和子(理 事) 山田 作夫(評議員)

(2017年11月30日現在)



KPU NEWS No. 192 2018年1月発行／編集：KPU NEWS編集委員会

発行：京都薬科大学 〒607-8414 京都府京都市山科区御陵中内町5 ☎075-595-4691 (企画・広報課)

※本誌掲載の文章及び写真の無断転載を禁じます。